

「その視点がいのちを救う」 ～災害時の現場から学ぶ～

NPO法人
阪神高齢者・障害者支援ネットワーク
理事長 黒田裕子

東日本大震災支援全国ネットワーク
12. 8. 22.

はじめに

- 「いのち」が助かった被災者の多くは、避難所での集団生活を経て、仮設住宅で生活
- 仮設住宅は、プライバシーが守られる反面、問題が見えにくい



引きこもり、ひいては孤立化

各フェーズにおける災害医療の役割

フェーズ	超急性期一救出救助期 (数時間)	超急性期一早期 (～72時間)	急性期 (～7日)	亜急性期 (～1ヶ月)	慢性期一復旧復興期 (～3年)	静穏期～準備期
社会支援	災害現場周辺の人的資源による救援	医療機関の傷病者受け入れ、被災地域からの救援到着	災害の全貌の把握、災害医療支援計画の立案	ライフラインの復旧ボランティアの派遣	仮設住宅への移動 復興住宅への移動	新しい家の建築、町並みの復旧、災害対策の構築
災害医療の役割	自主防災 救急・外科治療 感染症対策 慢性疾患患者ケア こころのケア 災害検証 訓練・教育					

活動の意味を明確化

- 何故、自分が活動をしているのか。
- 何の為に活動をしているか。
- 活動をすることで何を期待できるか。
期待したいのか。を明確にする。

目的、目標を明確しての活動を実施する。

当団体が受け持っている 仮設住宅の概要

	A仮設住宅	B仮設住宅	C仮設住宅
世帯数(世帯)	153	8	26
住居者数(人)	364	19	53
平均年齢(歳)	47.96	55.47	47.45

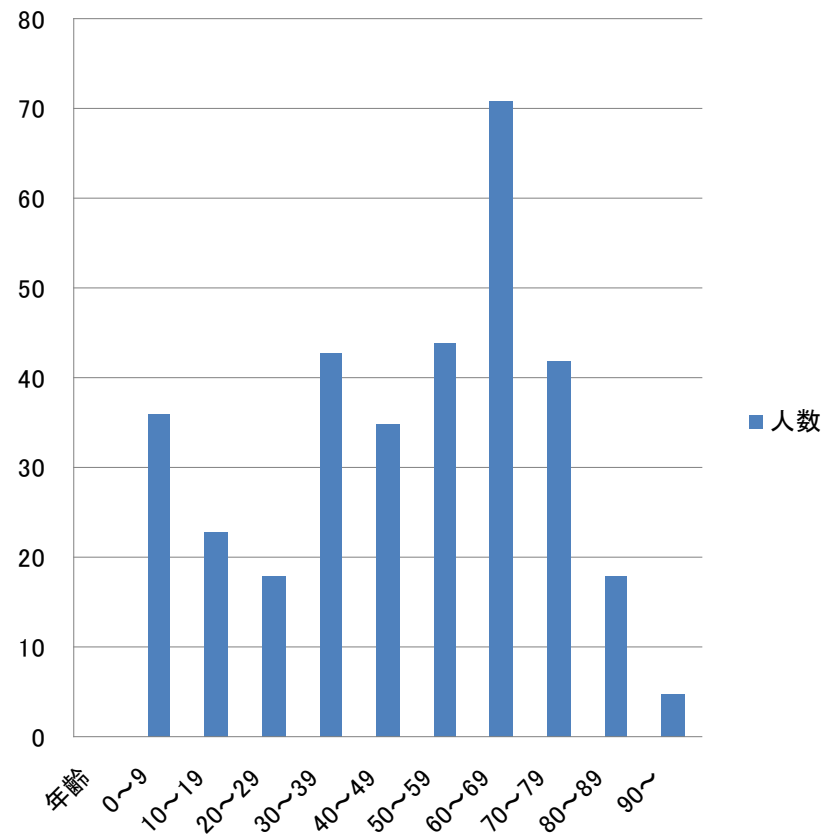


気仙沼市の人口と世帯数 7月末現在

地 区	人 口	世 帯
気仙沼	17,995(+ 1)	7,569(+ 3)
鹿 折	6,192(- 13)	2,294(- 9)
松 岩	8,450(+ 20)	3,135(± 0)
新 月	5,459(+ 34)	1,987(+12)
階 上	4,441(+ 53)	1,532(+14)
大 島	3,015(- 3)	1,092(- 1)
面 瀬	6,219(+ 26)	2,167(+ 6)
中 井	2,470(+ 8)	775(+ 4)
唐 桑	3,230(+ 11)	1,048(+19)
小原木	1,442(+ 11)	526(+ 7)
小 泉	1,618(- 1)	536(- 2)
津 谷	5,248(+ 29)	1,722(+19)
大 谷	3,715(+ 3)	1,224(- 1)
合 計	69,494(+179)	25,607(+71)

※ () 内は前月比

面瀬仮設住宅年齢分布



活動構成メンバー

- 自治会長
- 民生委員
- 介護福祉士
- 医師、歯科医師
- 看護師
- 友愛訪問員
- 仮設内住民ボランティア
- 一般、学生ボランティア

多くの方々の
協働が大切



支援って何でしょうか

- 誰を支援するのか。
- 何を支援するのか。
- 支援することで何が得られるか。
- 何故、支援したいと思っているのか。
- あなたが支援することで、被災者にはどんな反応がでるのか。

<支援後の反応を検証する>

<検証後、お互いが、支援し合うことが重要である>

支援するに当たって何が見えますか

- 人間である被災者を支援する。
- 人間が住む被災地を支援する。
- 人間がくらしている地域を支援する。
- 支援する中で自己の活動が見える。
そのことから何を検証するのか。
- 全体のなかの個をみる訓練を行なう。



活動内容 1

- 24時間体制での見守り(看護師常駐)

- コミュニティづくり

お茶会や毎朝のラジオ体操などの日常生活リズムの安定化、および【場】の提供

- 訪問看護、介護活動による安否確認、
自殺および孤独死の予防

- 自治会支援





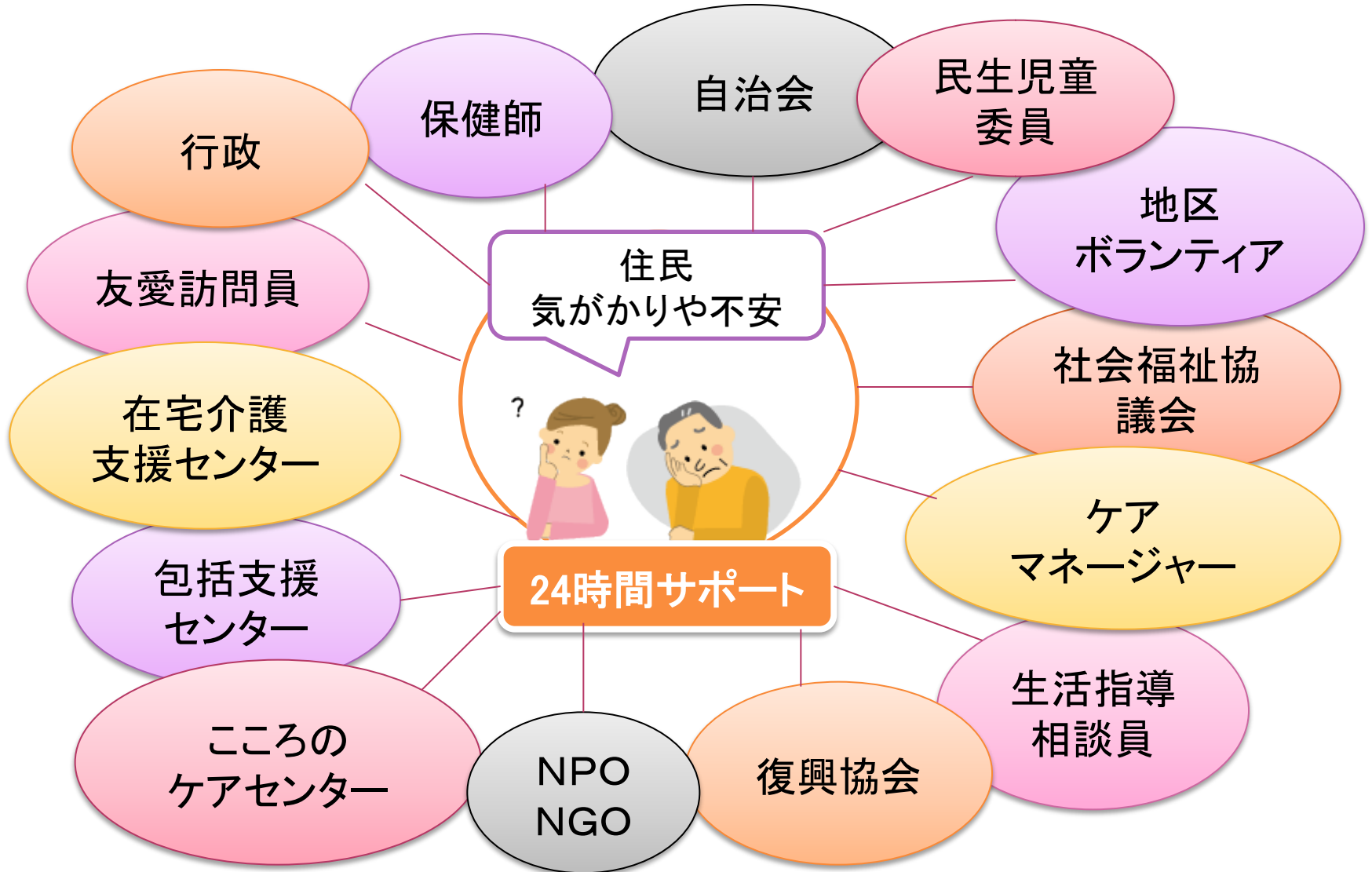
活動内容 2

- 各種イベントのコーディネーター
- 継続的なこころのケア
- 託児所、子供の居場所づくり(遊び場提供)
- 現地支援者、支援団体へのサポート
- その他

生活全般における悩み相談



連携



ピアカウンセラーの仕組に取り組む

- 同じ年代
 - 同じ境遇
 - 同じ趣味
 - 自分の意見を押し付けない
 - 一緒にいても感じがよく元気がでる
- 家庭訪問・病院訪問・お買い物ツアー等

考 察 1

- ・災害サイクルにみる時間経過や季節による看護の変化をきめ細やかに捉える
- ・仮設住宅には多種多様なニーズがある
- ・極めて複雑な生活の場における看護上のニーズに真摯に取り組むという重要な役割が求められている
- ・その人の価値観を尊重、日々の生活に視点を置く





考 察 2

- ・集会所でのお茶会を通じて
コミュニティの強化



住民同士の支援が始まる



閉じこもっていた人が外出
生活不活発現象の予防

- ・対象をとらえる際は、全体の中の【個】



今後の課題

◇「いのち」「暮らし」を見据えた支援

◇自立と共生をはかる支援

◇多職種の人々による

中・長期を見据えたネットワークの構築

◇移転に伴っての健康（心・体）



おわり

- 自分が何をしたいのか。明確化して活動を行なう。
- 人間不在にならない活動は自分の満足では活動はしない。
- 実践していく上で、気がついたことは、政策、提言・提案する。
- 実践したことを必ず検証し次に繋げる。
- 考える活動の展開が、一人の人としてのいのちを救う。